

短報

岡山市街地付近の森林にまで侵出し始めたニホンジカ

清家ありさ¹・井上 愛¹・小林秀司¹

Japanese sika deer, *Cervus nippon*, has reached forested urban fringe in Okayama City

Arisa SEIKE¹, Ai INOUE¹ and Shuji KOBAYASHI¹

Abstract: A male of Japanese sika deer, *Cervus nippon*, was observed on Mt. Daimi-sen. This fact indicates that the recent increase and dispersion of the species all over Japan has already reached the forested urban fringe in Okayama City.

I. はじめに

近年、日本各地で起きていたニホンジカ *Cervus nippon* の異常繁殖は、ついに岡山県下にも伝播し、2006年度には県東部のみの分布が、2010年度には全県的な分布を示すようになった(岡山県 2012)。とはいっても、増加と被害が著しいのは備前市や美作市といった県東部の市町村が中心であり、吉井川以西では、目撃や捕獲は増えつつあるものの(中村私信)、旭川以西に位置する岡山市街地付近からの報告は知られていない。

ところが、2013年11月18日、岡山市街地の北に隣接するダイミ山でニホンジカの雄が目撃された。このことは、ニホンジカの異常増殖と分布の拡散が県南部の岡山市街地付近にまで及びつつあることを端的に示す事例と思われるので以下に報告する。

II. 第1遭遇

目撃されたニホンジカの基本データを以下に示す。

日時：2013年11月18日 15時40分頃。

場所：岡山県岡山市ダイミ山西部、半田山との鞍部(北緯34度41分44.6秒 東経133度55分12.3秒、図1)。

性別：オス

体色は濃く尻の毛が白い。胴体の斑点は認められない。大型の角を有することから、オスと判断される。

遭遇状況：著者の清家と井上が、夕方3時40分ごろ、ダイミ山の山道で野生のニホンジカに遭遇し写真の撮影に成功した。目撃時間は約1分間で、当該個体が茂みから山道へと飛びだしたことで、その存在に気が付いた。山道に出たシカは即時に逃走することはなく、道に佇んでこちらの様子を覗っており、その間に写真を撮影した(図2)。撮影後、山頂に向かって道なりにゆっくりと駆けてゆき、そのまま姿を消した。

周辺環境：この個体が撮影された周辺環境は、コナラ *Quercus serrata* を主体とした二次林に囲まれた標高約150mの地点で、近くにイノシシ捕獲用の罠が設置されている。環境整備のための自動車が通行でき

1. 〒700-0005 岡山県岡山市北区理大町1-1 岡山理科大学理学部動物学科 Department of zoology, Faculty of science, Okayama University of Science, 1-1 Ridai-cho, Kita-ku, Okayama-shi, Okayama-ken 700-0005, Japan.



図1. ニホンジカ目撃地点付近の地図. A: 第1回目の遭遇地点, B: 第2回目の遭遇地点. (国土地理院地形図二万五千分の一「岡山市北部」を改変)



図2. ダイミ山の立ち止まり, こちらをうかがうニホンジカのオス(黒線内). 清家撮影.



図3. 第2回目に遭遇した地点の様子. この林を駆け上る姿が見られた.

る山道があり, 見通しが良い.

III. 第2遭遇

第1遭遇から約10分後に目撃された個体についての基本データを以下に示す.

日時: 2013年11月18日 15時55分頃.

場所: 岡山県岡山市ダイミ山, 東北東斜面(北緯34

度41分49.6秒 東経133度55分32.5秒, 図1).

性別: オス(第1号個体の特徴に酷似していたが, 同一個体であるかどうかは不明).

遭遇状況: ダイミ山岡山大学演習林の岡山理科大学付近で井上と清家が目撃した. 当時, 著者らのほかに岡山理科大学附属高校の男子生徒数人も目撃している. 山道を挟んで谷側の茂みから山頂側の林へ入り, こちらをうかがっていたがすぐに姿を消したため撮影できなかった.

周辺環境: 岡山理科大学からつながるコナラやアラカシ*Quercus glauca*を主体とした人通りの比較的多い山道であり, 北側斜面は隣接する陸上自衛隊三軒屋駐屯地の敷地とフェンスで仕切られている.

小林・川原(2010)は, 岡山県東部のニホンジカの生息密度の増加について生態系への影響が懸念されるとして警鐘を鳴らしているが, 今回の目撃は, 分布拡大のバリアーとしてそれなりに機能していた旭川をニホンジカが突破し, 岡山市街地周辺まで侵出し始めていることを示している. 今後は, 生息密

度の増加による農林被害や生態系への影響が県中西部にも拡大する可能性を強く示唆するものである.

IV. 謝辞

今回の報告をまとめるにあたり, 岡山県猟友会の中村伸一氏には貴重な情報をいただきました. また, 岡山理科大学教授高崎浩幸先生に助言をいただきました. この場を借りて厚く御礼申し上げます.

V. 引用文献

岡山県(2012). 第3期ニホンジカ保護管理計画書.

9pp. 岡山県環境文化部自然環境課.

小林秀司・川原啓路(2010). 哺乳類相の概要. 岡山県生活環境部自然環境課編, 「岡山県版レッドデータブック2009」: 25-27. 岡山県環境保全事業団.

(2014年1月7日受理)